

平成 2 5 年千葉市教育委員会会議
第 9 回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成25年千葉市教育委員会会議第9回定例会会議録

日時 平成25年9月25日（水）

午後4時00分開会

午後5時35分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委	員	長	内山	英夫
	委		員	和田	麻理
	委		員	篠原	ともえ
	委		員	中野	義澄
	委		員	明石	要一
教	育	長	志村	修	

出席職員	教	育	次	長	田辺	裕雄	指	導	課	長	山本	幸人													
	教	育	総	務	部	長	保	健	体	育	課	長	津野	政彦											
	学	校	教	育	部	長	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	真田	清貴									
	生	涯	学	習	部	長	養	護	教	育	セ	ン	タ	ー	所	長	山本	雅司							
	総	務	課	長	石野	隆史	生	涯	学	習	振	興	課	長	松戸	利一									
	企	画	課	長	大崎	賢一	中	央	図	書	館	長	橘	高俊											
	学	校	財	務	課	長	生	涯	学	習	振	興	課	文	化	財	保	護	室	長	横田	正美			
	学	校	施	設	課	長	生	涯	学	習	振	興	課	科	学	教	育	推	進	担	当	課	長	遠藤	悟
	学	事	課	長	小川	彰	生	涯	学	習	振	興	課	主	幹						塚越	達雄			
	教	職	員	課	長	伊藤	剛																		

書	記	総	務	課	長	補	佐	山本	春樹	総	務	課	主	任	主	事	藤井	拓也			
		総	務	課	総	務	係	長	渡邊	実			総	務	課	主	任	主	事	佐久間	暁子

- 1 開会
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
内山委員長より明石委員を指名
- 4 会期の決定
平成25年9月25日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 議事の概要
 - (1) 非公開事項の決定
議案第31号及び議案第32号を非公開審議とする旨決定
 - (2) 報告事項
報告事項(1) 平成25年度千葉市農山村留学推進事業（長野県実施）について
指導課長より報告があった。
報告事項(2) 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について
指導課長より報告があった。
報告事項(3) 平成25年度中学校体育大会の結果について
保健体育課長より報告があった。
報告事項(4) 千葉市科学フェスタ2013について
生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。
報告事項(5) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とした主な事業の実施結果について
生涯学習振興課長、中央図書館長より報告があった。
報告事項(6) 開館日の拡大について
中央図書館長より報告があった。
 - (3) 議決事項
議案第31号 県費負担教職員の人事について
教職員課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
議案第32号 平成25年度千葉市教育功労者表彰について
総務課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

(4) 発言の要旨

報 告 事 項 (1) 平成 25 年度千葉県農山村留学推進事業（長野県実施）について

内 山 委 員 長 指導課長、報告をお願いします。

指 導 課 長 報告事項(1)「平成 25 年度千葉県農山村留学推進事業（長野県実施）について」、報告します。

本年度 8 月 23 日から 26 日まで行われた長野県での農山村留学について報告します。

他人を思いやる心や社会性、自主性を育成することを目的に、21 校 1,128 人が 17 市町村 20 地区に分かれてさまざまな体験を行いました。本年度は、児童の安全第一に取り組んできましたが、おかげさまで軽いけがが 1 人、発熱 1 人という状況でした。

主な活動内容として、農作業体験、和太鼓体験、星空観察やハイキング、味噌づくり等の食に関する活動、箸づくり等の製作活動など、地域の特色に合わせた活動が行われました。また、ホームステイを通して、ホストファミリーとの温かい心の触れ合いを体験しました。

今年度は、初日の雨で予定されていた活動ができるか危ぶまれましたが、受け入れ地区の方々のご尽力、引率職員の臨機応変な対応により、工夫を凝らした体験活動が行われ、計画以上に地域の人々とのつながりを図ることができました。

成果については、豊かな自然と地域の人々との心温まる交流が、子どもたちにとって貴重な経験となったこと、保護者から離れて生活することで、自分のことは自分ですするという主体性を伸ばす機会になったことなどが挙げられます。農山村留学については、長野県各新聞社に取り上げられ、地元でも関心の高い事業になっています。

長野県でのホームステイが今年度から 1 泊 2 日になったことについては、ホストファミリーの方々から残念という声が多く聞かれています。

その他として、長野県だけではなく、県内においてもホームステイを実施しています。今年度、県内ホームステイの機会を広げたことで、より多くの子どもたちがホームステイを体験できる状況が整ってきました。今後も、ホームステイの拡充などを通して、農山村留学がより充実するよう努めていきます。

明 石 委 員 このホームステイが1泊になったわけは何故でしょうか。長期の農山村留学の場合は、農村の方が高齢化しているため、半年間過ごすのは大変だということがあるのですが、今回の場合は、逆にホストファミリーから残念だという声がありますから、1泊減った原因がわかれば教えてほしいです。

指 導 課 長 これまで長野県における農山村留学は4泊5日で実施していました。県内での農山村留学は3泊4日が原則として行われており、今年度から子どもたちの活動内容、宿泊について平準化することを目的に、長野県での農山村留学も3泊に変更したわけです。4泊のうち2泊をこれまでホームステイを行っていましたが、今年度からそのうち1泊のホームステイを削り、1泊のホームステイ、それからあと2泊の集団の宿泊に、変更して実施しました。

ホストファミリーからは、やはり2泊であった時は、子どもたちと触れ合って、本当の家族のように涙ながらの別れをしていたのですが、1泊になり、もう少し子どもたちと一緒に過ごしたかったなという思いで、このような意見が寄せられています。

明 石 委 員 どうもそれが納得できないのですが、平準化というのは4泊5日に合わせるのわかりますが、3泊4日に合わせるというのが、今の子どもたちの現状をわかっていないのではないのでしょうか。一日増やすことによって、教職員は大変なので、そのような本音があるのですか。その教職員が大変な場合は、まさに学校支援ボランティアの方に何らかの形で加わってもらうという発想を持ち、4泊5日の期間やってほしいと思います。

そこで本題ですが、これまでの県内の3泊4日と、長野県の4泊5日のデータを出してほしいです。感想文というのは大事けれども、大体みんな感想文は良いことが書いてあります。だから、多面的なことで、友人の数が増えたとか、学校で遊んでいる友人とは違う友人と遊んだとか、それで子どもたちの自尊感情が強まったとか、仲間行動が変わったなどについて、3泊4日と4泊5日ではどの数値が高まって、どの数値が変化ないかという基礎データを、これまでとってきたのか、とってこなかったのかをまずお聞きしたいです。それがないと議論できません。

指 導 課 長 データですが、これまで長野県での実施について、国立教育政策研究所が作成した自然体験による効果測定を用い、測定をしています。今までは4泊5日でしたが、今年から3泊になったので、昨年と今年を比較することは可能になりましたので、昨年ま

でのデータと照らし合わせて分析をしていきたいと考えています。

明 石 委 員 大規模校、1 学年 3 クラスの中規模校と、1 学年 1 クラスの小規模校がありますよね。一律に 3 泊 4 日でなく、学校の規模に応じて、例えば小規模校の場合は、交流する機会が少ないから機会 4 泊 5 日にするとか、大規模校は 3 泊 4 日とか、そのような分け方をしてくれるのであれば、納得しやすいのだけれども、一律に 1 泊を削るというのはどうなのでしょう。去年までの県外の 4 泊 5 日と県内の 3 泊 4 日のデータがあるはずなので、それを見せてくれないと議論できないと思います。

ですからその数値があれば、次回のこの会議に出していただきたいと思います。

その効果測定を、国立教育政策研究所の一つの尺度しか使っていないのですか。

指 導 課 長 はい、そうです。

明 石 委 員 青少年教育振興機構がつくっている I K R というのは、全国で使われているのですが、それは使っていないのですね。

交友関係や、自尊感情などの客観的なデータを一つだけの尺度で測定しても、3 泊やったほうがいいのか、4 泊やったほうがいいのか、わからないのではないのでしょうか。

内 山 委 員 長 子どもたちから、いろいろな感想等含めてデータはあると思うので、どこがどういうふうになるかというのはこれから検討してもらえないかと思います。3 泊と 4 泊とどちらがいいというに変ですが、我々としては、できるだけ多く体験してもらいたいという率直な気持ちがあります。3 泊に減らすことで効果は余り変わらないというのであれば仕方ないと思えるので、分析してもらえますか。

篠 原 委 員 昨年から、県内でのホームステイが始まったのですね。

指 導 課 長 はい。

篠 原 委 員 県内でも実施できないかということから始まったのですが、そのことによって、ホームステイを 1 泊でもすることができる子どもたちの数というのは、昨年に比べて、今年はどのくらい増えましたか。

指 導 課 長 昨年は 3 8 0 人ほどでしたが、今年は 1 , 3 5 0 人ほどに増えています。

それから、先ほど明石委員のご指摘ですが、これまで長野県の

農山村留学については、参加した子どもたちや職員のデータを、ずっととっています。自分のことは自分でやれるようになったかなど、かなり細かい質問紙に対し、事前と事後をとり、どれだけ意識が向上したかという調査をしています。

昨年から県内でホームステイを実施した学校でも、データを取り始めました。今年はそれに加えて、県内で農山村留学を実施しているものの、ホームステイを実施しない学校があり、そこも抽出調査を始めたところですが、12月の初めまで続くので、まだまとめられない状況です。

長野県については、今、分析をしているところです。

和田委員 ホームステイのことで感想と要望になるかと思うのですが、受け入れ先で児童にいろいろな体験をさせてあげようと親身になって対応してくれた気持ちがあり、恐らく普段の生活をともにするというよりは、あれもこれもしてあげようという、いわゆる日本人の得意なおもてなしをしていただいているのかと思いました。

もしかしたら、本当に子どもたちに必要なのは、あれこれセッティングしてくれていることではなく、農家でいろいろな作業をするなど、日常の生活を一緒に体験することなのかとも思います。体験活動はホームステイ以外でも十分に組み立てられていますので、もしできるのであれば、ここはホームステイ先の方々に心を鬼にさせていただいて、朝は早く起こして、子どもたちと一緒に朝ご飯をつくるような体験をしていただくことができればと感じました。

篠原委員 去年の380人から1,350人と、これだけたくさんの子子どもたちがホームステイに参加していますが、まだ長柄の自然の家だけという学校はどのくらいの数あるのでしょうか。

指導課長 5年生の移動教室に引き続き、6年生でも長柄の少年自然の家を使っている学校はあります。ただ、来年から、その長柄においても、バスに乗って大多喜地区などでホームステイを始める計画を立てています。また、各学校では、移動教室と農山村留学は同じ場所ですが、目的や活動を異にして差別化を図り、違う行事として捉えて取り組むようにしています。

志村教育長 今の話は、資料をもとにして話をすると、平成25年度農山村留学実施場所の参加人数というのが、今年度の6年生の参加する子どもの数と考えていいのでしょうか。

指 導 課 長 はい。

志村教育長 そのうち、長野県の1, 128人についてはホームステイに参加したということでしょう。

指 導 課 長 はい。

志村教育長 それから篠原委員からお話があったように、ほとんどの学校が長柄少年自然の家だけであった頃から、20校の1,464人に減ってきたわけです。その上、南房総市岩井地区や鴨川市の千枚田の大山地区などで実施した5,500人くらいの子どものうちの1,345人が、今年度ホームステイができるようになったため、長野県の1,128人と合わせると2,470人くらいの子どもたちがホームステイができるようになってきたことになります。本当は2泊させたいところもありますが、これをさらに改善していけるようになれば、ほかの家庭の中で一緒に暮らすというホームステイを千葉市の多くの子どもたちができるようになってきます。

いきなりこのホームステイというものはできないので、根回しをしてお願いをしています。そのうち6時に起きるようにホームステイ先へお願いすることもできるようなことになると思います。要は、人間関係をつくってからだと思いますが、数字の実績が確実に上がってきていることは資料を見れば非常にわかりやすいです。

明 石 委 員 5年生のときは1泊2日、2泊3日で移動教室を実施しているのですか。

指 導 課 長 2泊です。

明 石 委 員 2泊ですね。5年生で2泊3日実施して、6年生で3泊4日実施するということだから、これは非常に良いことですね。

そうしますと、県内を選ぶ、県外を選ぶという学校がありますが、それは学校の意見が通るのでしょうか。それとも、教育委員会が全体を見て、ローテーションで行っているのですか。

指 導 課 長 学校の要望で場所はほとんど決まっています。

明 石 委 員 私が気になっているのは、先ほど言った花見川第一小と第二小と花島小は同じ地域へ3校が行っているのですよね。

5年生のときはクラスづくりで行くのですよ。6年生になると、クラスを超えて、同じ地域の子どもたちが学校行事を通して、交流をできるという選択は非常に理に適っていると思いました。

5年生の移動教室のあり方と、6年生の農山村留学のあり方に

ついて、千葉市ではこういう方針をもってやっているということ
を説明していただけると良いと思います。

志村教育長 この花見川第一小、第二小、花島小は、今度は統合されて花
見川第一中に全員行くわけですから、中学校に入学したときに
いきなり顔を合わせるのではなく、既に6年のときに一緒にの共
同生活を実施しているということが多分プラスになるだろうと
いうことで、このような実施に至っているわけです。

内山委員長 この事業は大変な事業ですが、オーライ！ニッポン大賞を頂
いた誇りを持って、今後もより改善して進めてもらいたいと思
います。よろしくお願いします。

志村教育長 先ほど先生方は忙しいという話がありましたが、夏休みの長
野の農山村留学は初任者研修を兼ねていますから、初任者教諭2
00人がルートごとの初任者指導としてプラスアルファで付き
添います。参加学校の先生方はどちらかというと子どもたちを離
れて見ることができ、直接かかわるのは初任者なのです。

そのような意味では、初任者教諭の変化というのも多分この事
業の中にあるはずなので、先程明石委員がお話しした初任者研修
がどんな形になったかというデータなど、次のときはぜひ話をし
てもらいたいと思います。

報告事項(2) 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について

内山委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 報告事項(2)「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果に
ついて」、報告します。

本年度は、4月24日水曜日に、市内小学校113校、中学校
56校の小学6年生及び中学3年生の全児童生徒を対象に行わ
れました。

教科に関する調査として、国語、算数・数学の2教科をもって、
主として知識に関するA問題、主として活用に関するB問題が実
施されました。また、学習意欲、学習方法・環境、生活の諸側面
に関する質問紙調査も併せて実施されました。

調査結果については、8月27日に公開され、各学校には翌日
に結果が送付されています。

なお、今年度は「きめ細かい調査」として、「経年変化分析調
査」及び「保護者に対するアンケート調査」も抽出で実施されて
います。また、教育委員会に対する調査も行われましたが、その

結果については今後公表される予定です。

本市の調査結果ですが、全国、千葉県、大都市（政令市及び東京23区）との比較でこのように示しました。小学6年生及び中学3年生とも、全国及び千葉県、大都市の平均正答率を、いずれの教科も、A問題もB問題も全て上回る位置にあります。

また、本市の児童生徒の特徴として、A問題に比べB問題の正答率が全国や千葉県、大都市と比較して高い傾向が見られます。

次に、質問紙調査の結果に見られる特徴ですが、全国等と比べて顕著な部分については、小学校では「1日当たり2時間以上勉強をする」と回答した児童の割合は全国より5.2ポイント、「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合は4.8ポイント高くなっています。また、「家で、学校の復習をしている」と回答した児童の割合は全国より7.4ポイント低くなっています。

中学校では、「学校が休みの日に、1日当たり3時間以上勉強する」と回答した生徒の割合や、「読書が好き」と回答した生徒の割合が非常に高くなっています。その反面、「家で、学校の宿題をしている」割合が低くなっています。

学校質問紙調査からは、小学校では「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っている」割合、中学校では「朝読書を毎日行っている」割合が非常に高くなっています。

今後の対応ですが、結果の概要及び指導改善に向けたポイントを指導課で作成して、各学校に配布する予定です。また、各学校においても指導改善のために、調査結果を十分に活用できるよう、計画訪問等の機会をとらえ指導・助言を行うことで、「わかる授業」を一層推進し、児童・生徒一人一人の「確かな学力」の育成を図ってまいりたいと思います。

明 石 委 員 教育委員会事務局を初め皆様方、頑張ってくれて、非常に良い結果だと思います。

この結果を踏まえて、次の施策を良くするというのが大事かと思ひ、お願いがあるのですが、千葉市の小学校、中学校で学校図書館指導員を配置していると思うので、~~あ~~その効果測定を出していただきたいと思ひます。

そして、中学校では「国語の勉強が好き」で、「朝読書を毎日行っている」という回答が、全国の中でも相当高いというのはそのような施策の良さが反映されているという解釈ができそうなので、それをデータで示していただくと、非常に多くの方に教育

施策を理解してもらうことができ、市議会でも予算要求がしやすいと思います。

同じように、「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っている」という回答も20ポイント高いわけでしょう。これがB問題に影響するのですね。千葉市の中でも、利用している学校と利用していない学校があるはずなので、今度は小学校113校、中学校56校を3つくらいの層に分けてみて、どこまで影響しているかという千葉市レベルの分析もやってくれるといいかと思います。

さらに、準要保護の20%を超える学校がありますが、そのような経済的なものが千葉市でもこのような学力・学習状況調査に反映されているのか。A問題というのは、速効的に対策すれば、上がる場合がありますが、B問題はなかなか対策しづらいというのがよく言われているので、A問題とB問題に分けて内部資料として検討していただきたいです。

次に、千葉市は学校教育は成功しているけれども、家庭で子どもがまだ自学自習できていないという検討課題の良いデータがありました。調査結果はかなりいい数字まで来ているので、その次のステップに行くためには、今後どのような指導が良いかということが非常にここに出てきていると思います。

それとも、家庭の宿題をやらず、塾の勉強をしているのか聞かれてもわかりませんが、そのような意味では貴重な、これから検討する価値のある、いいデータですね。

内山委員長 これは子どもたちの動静といいますか、確かに学校の勉強をしないで、塾の勉強をしている、こういうことがあるかと思えますよね。

和田委員 今年度、他市、それから千葉県、全国と一覧になり、非常にわかりやすい統計を出していただき、どうもありがとうございます。特にB問題のほうが全国との比較で高いということは本当に誇らしいと思いました。先ほど明石委員がお話したように、なかなかすぐに成果が出るものではないB問題でこれだけ成果が上がっているというのは、本当の意味での学力がついているのではないかと思い、嬉しくなりました。

質問紙調査についてですが、質問がどちらかというとプラスの質問が多いのでしょうか。例えば「1日当たり2時間以上勉強をしていますか」という全てプラスの質問だけであり、「毎日、家

で勉強をしないですか」というような「しませんか」という逆の質問、例えば時間数が少ない、読書が嫌いというような質問の設定はないのでしょうか。

指導課長 今年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査ですが、「土曜日の午前は何をして過ごすことが多いですか」というような質問に、1番学習塾、2番習い事、3番スポーツなどの中から、1番、2番を選ぶような質問もありますし、「ふだん1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」という質問に、「2時間以上」「1時間以上」、というような質問が多くなっています。

「家で学校の授業の復習をしていますか」という質問については、「している」「どちらかというとしている」「余りしていない」「全くしていない」という選択肢の中から選ぶような調査になっています。

和田委員 例えば、「1日当たり2時間以上勉強する」と回答した児童は、全国より5.2ポイント高いということですが、「全くしない」という項目が「家で学校の復習をしている」ということにつながるのですか、それとは別の質問ですか。

指導課長 それは別の質問です。

和田委員 真ん中が少なく、上と下がすごく多いと平均すると、真ん中より上になるということもありますが、家で勉強する時間が長い子がたくさんいても、すごく少ない子もたくさんいるというのは余り良くないと思います。

同じように、国語の勉強が好きだという子がたくさんいても、嫌いだという子どもがたくさんいると、それもまた良くないことです。マイナスのほうの子どもたちはどんな感じでしょうか。目立った特徴が2点だけと少ないということでしょうか。

指導課長 そちらについては、「国語の勉強が好きですか」という小学6年生に対する質問の中で、「当てはまらない」という回答が好きではないということだと思うのですが、全国よりも3ポイント少なくなっています。ですので、やはり高いところだけではなく、低いところもあわせてしっかりと分析をしないといけないと考えています。

和田委員 あと、回答を選ぶ選択肢も少々わかりにくいようなところもなくもないですね。「当てはまらない」というのも、子どもにとってどう解釈できるのかという感じがしますね。

指導課長 はい。

この質問紙調査については、平成 19 年度から始めました全国学力・学習状況調査の質問紙調査と余り変えないで経過をみるという性格があるので、急には変えていないのかというように感じます。ただ、新たな質問等は毎年少しずつ出てはきています。

明 石 委 員 ちょっと質問なのですが、このデータは各学校で機密文書として持っていてもらっているのですよね。

そこで聞きたいのですが、各学校でこのデータを、研究主任を中心に、教頭、校長、教務と研究主任がデータ分析したかしかないかってわかりますか。みんな金庫に入れて、鍵かけたままではありませんか。

指 導 課 長 各学校については、8 月 28 日に C D - R O M で、それぞれ学校のデータは送られ、そしてパスワードで解凍して見るということになっていますが、それについてしっかりと分析をしたかどうかは、全部は把握していません。しかし、9 月の当初に届いているので、しっかりと分析をして今後の学習の改善に役立てるよう周知しているところです。

明 石 委 員 要望ですが、学校の夏休みは非常に忙しくて、子ども調査、親調査、校長の調査等、たくさんの客観的な調査があります。それを一気に学校に任せると大変なので、研究主任などを集めて、教育委員会内部で分析をすると良いと思います。

成績に一喜一憂したら困るので、学校規模の問題もありますが、地域の責任なのか、学校の責任なのか、家庭の責任なのかを内部で検討しておく必要があります。

ぜひこのような大事なデータ、エビデンスに基づいて、自分たちの業績を評価して、内部だけで検討します。それはオープンにする必要はありません。そのような研究の仕組みを教育委員会が応援してくれると、各学校も助かると思っています。

内 山 委 員 長 今、ご提案ありましたけれども、検討していただけますか。

志 村 教 育 長 実はもう一つ、毎年県と同様に、千葉市独自の学力調査を実施しています。こちらは、全部の学年でほとんど実施していますから、そちらは学校で、各学年で分析していると思います。この国の学力・学習状況調査は、ある程度傾向がありますから、対策している学校もあるでしょうし。

どちらかというとも本市独自でやっている学力調査のほうが、経年比較ができる分プラスになるので、そちらは多分各学年で分析してくれていると思いますし、今までもそういう慣例があります。

たまたま今年は全校実施だったのですが、去年は抽出校のみで実施していましたから、学校の中に分析をする意識は多少弱いかもしれません。

せっかくのデータですので大事にしたいと思いますし、Bだけではなく、Aも良くなってほしいというのが偽らざる気持ちです。学校に、校長を通じてお話しさせていただきたいと思います。

報 告 事 項(3)平成25年度中学校体育大会の結果について

内山委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

保健体育課長 報告事項(3)「平成25年度中学校体育大会の結果について」、報告します。

市及び県・関東の各大会の結果については、既に第8回定例会で報告しました。今回は、8月17日から25日の期間、東海地区で開催されました、全国中学校体育大会における本市代表選手の結果について、報告します。

全国中学校体育大会には、団体2種目、個人7種目に41人の選手が出場しました。

第8回定例会で、全国大会での活躍が期待される選手として紹介した、打瀬中学校の持田早智さんが、水泳競技女子50m自由形と女子100m自由形の2種目で優勝というすばらしい成績を収めました。

9月4日水曜日に、教育長室において、選手、顧問、校長が教育長に優勝の報告をしました。今回の会議において、その時の様子の写真を掲示しています。

志村教育長 メダルは、教育委員会で作成し、私が代表として渡しました。

明石委員 そのスペアはもうないのですか。

保健体育課長 ありません。

明石委員 メダルを1個作るのにどれくらい経費はかかるんですか。

保健体育課長 単価が2,000円くらいだと思います。

志村教育長 2年生ですから、来年も中学生ですね。東京オリンピックのころは、ピークになるかもしれないですね。

和田委員 20歳くらいですね。

明石委員 そのメダルというのは、全国で優勝しないといただけないのですね。保健体育課でガイドラインを決めてほしいのですよね。やはりそれは中学生らの目標ですよ。教育長に表敬訪問できるようなところまでとか、校長室に表敬訪問できるようなところまでとか決

めてくれると、全然モチベーションが違ってくると思います。

和田委員　せめて全国6位くらいまでは呼んであげたい気がします。

内山委員長　普通は8位まで表彰されますね。

明石委員　すぐには難しいから、委員長をチームにしてガイドラインを決めてほしいですね。

内山委員長　全国で2位になるのは大変なことなんですよ。

和田委員　大変ですよ、まして優勝なんて。地域住民として学校に垂れ幕が欲しいと思いました。

内山委員長　A3くらいの張り紙だけだそうです。

和田委員　A3くらいの紙が外に向けて、窓に紙で張ってありました。

保健体育課長　各学校で垂れ幕等について対応していますが、これまでに全国で優勝レベルになったお子さんが在籍した学校では、垂れ幕や、横断幕等を掲げて地域の方にお知らせしているという状況はありません。

和田委員　それは学校で何とかしてひねり出すという形ですか。

学校教育部長　今、高等学校は通常、同窓会の規約の中に部活動援助費というのが計上されています。千葉市内の全中学校を調べましたが、同窓会費の使い道はほとんどが周年行事になり、部活動に援助を出しているという学校は1校しかありませんでした。他の団体となると、PTAが設立されている学校はPTAから部活動援助費という形で計上されますので、横断幕等も作れます。それと、創立の古い学校は、別に後援会をつくっています。企業や地元に住んでいる方々が学校を応援しようという組織ができている学校が、昨日聞いた時点では4、5校ありました。

そういった活動を地元からも応援していただける件について調査しています。打瀬地区も企業がたくさんいるわけですから、打瀬地区の後援会をつくっていただけると良いですね。

志村教育長　この写真は、今日の会議が終わったら、学校に渡すのですね。

保健体育課長　はい。

志村教育長　だから、これは学校に飾ってもらえるのです。

実は全国大会であるちびっ子相撲で今年大関になった千草台小学校の5年生の男子から大きなトロフィーを持って報告があったのですが、これもまたもっと基準がないのです。仕方ありませんので、チーバ君の相撲のバッジを1個だけ持っていたので、「大事なもののけど、これをあげましょう」と言ってあげました

ら、「光栄です」と答えてくれました。

金額の問題ではなくて、気持ちが大事だろうなと思いました。
もう少し検討はしてもらえると良いですね。

内山委員長 良いニュースで、うれしいことですね。

私の関係する陸上競技でも、棒高跳び、1,500mなどで出場しましたね。年に1度の大会ですが、一人でも出てくればありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

何度も言いますように、顧問の指導は、大変なんですよ。頑張ってもらいたいと思います。

報 告 事 項(4) 千葉県科学フェスタ2013について

内山委員長 生涯学習振興課科学教育推進担当課長、報告をお願いします。

科学教育推進担当課長 報告事項(4)「千葉県科学フェスタ2013について」、報告します。

千葉県科学都市戦略事業方針に基づき、市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる総合的な科学の祭典として、千葉県科学フェスタ2013メインイベントを、10月12日、13日に開催します。会場となるきぼーるに科学コミュニティを出現させ、子どもから大人まで多くの方々が科学・技術に親しむ機会をつくります。

日時、会場、主な企画の詳細については、別紙「千葉県科学フェスタ2013」のチラシを参照ください。少々細かい字ですが、これだけのにぎわいがあるというのがわかると思います。

今年度のメインイベントの特徴として、千葉市の教育センター、あるいは千葉市教育研究会理科部会、あるいは東工大のOBのつくっている蔵前理科教室等に新たな協力を得て、じっくりと科学に浸る科学実験・工作教室を増やしたこと、来場者が会場で体験したことを家庭に持ち帰ることができるように、各出展団体の実施内容をまとめた科学フェスタ2013の公式ガイドブックを発行すること、先日9月21日から23日に開催された総合展科学部門で、教育長賞あるいは科学館賞などを受賞した児童・生徒の表彰をすること、及び科学館賞においては発表会を開催すること、さらに、科学体験ブースを回った来場者は、世界唯一の二足歩行ロボット操作を体験できるロボキャッチャーの操作体験ができることなどが挙げられます。

なお、10月9日水曜日に、市長定例記者会見でお知らせとし

て紹介していただく予定です。

和田委員 昨年もお願いとして話したことですが、この周知について、昨年度も私が所属している青少年団体で皆さんにお話しして、子どもたちを地域で連れていっていただくこともできたら良いのではないかと団体に話しました。今年度、そのような青少年健全育成団体などに凡その日程やプログラムなどをあらかじめ周知していることは既に実施していますか。

科学教育推進担当課長 健全育成課を通して、9月第2週に青少年団体の会合があり、その折にチラシを配っていただきました。さらに、中央区の青少年育成委員会がありましたので、その場でもチラシを配布しました。このように地域の青少年育成に関わっている団体についても、今年度は周知をしています。

和田委員 ありがとうございます。

なかなかすぐには成果が出ないかもしれませんが、毎年実施することで、そのような団体からも子どもを連れてきてくれることも起きてくると思いますので、引き続きよろしくお願いします。

明石委員 非常にこのパンフがよろしいので注文ですが、「千葉市科学フェスタ月間」という文字を大きくしてほしいのです。これを見ると、2日間はメインイベントがあることがわかりますけど、月間で実施するというのが非常に新鮮味があると感じました。

以前に申しましたが、茨城県は11月を「いばらき教育月間」としています。そうすると、教育の取り組みに人口290万人全員が一度は参加しています。そのように、千葉市科学フェスタ月間を通して、学校教育、生涯学習も含めて、何かの形で96万人の市民が科学的な触れ合いをしてほしいのです。

非常にこれはいい中身なので、幼児から高齢者までが科学に親しむ組み立てを作ってほしいと思います。先ほども和田委員からお話のあった、広報も含めもう少し高齢者にも科学に親しんでほしい。今回の震災も含めて、私たちがほとんど知らない大人の科学という知識を学習しなくてはいけないと市長は言っています。そのような意味で、記者会見では、その3日間も大事だけれども、千葉市が全国初で、フェスタ月間を実施しているということを強調してくれると、市民にはわかりやすいと思います。

科学教育推進担当課長 来年に向けて、今後、実行委員会において改めて検討を始めますので、今の意見を参考にしていきたいと思います。

和田委員 このサテライトイベントも月間だけではなく、年間を通して

ほかの月にも実施してますよね。

科学教育推進担当課長 千葉市科学フェスタ月間については、昨年度は10月のみにしたのですが、今年度は総合展の開催される9月21日から始まって、宇宙展の宇宙の日の表彰式の開催される10月20日というちょうど4週間にわたって、最初もあり終わりも締めることがあるという形で設定しました。

次年度は、行事を見ながら、その月間にふさわしい日程を組みながら、月間のイベントやサテライトについても、もう少し充実させたいと思います。

サテライトについては、昨年同様、4月から3月まで実施して、浸透させていくように頑張っているつもりです。

和田委員 1年中科学フェスタみたいな形ですね。

内山委員長 今度もぜひ成功すると思います。よろしくお願いします。

明石委員 私も今回初めて総合展に出席しました。指導課にお願いしたいのですが、教育長賞や科学館賞をもらった作品は非常に良いので、製作者が市立千葉高に来てくれるような高校受験の仕組みはできませんか。

強制できませんが、せっかくあそこまでいい素質を持った方を、スーパーサイエンスハイスクールで伸ばして行ってほしいです。それと同時に、稲毛高校に入学した場合には、両校で応援すると良いでしょう。そうしないと、あんな良い素材をあのまま放っておくと、大体私学かどこかに持っていかれると思います。何とかもう市立千葉高に持っていくように、ぜひ追跡してほしいですね。

報告事項(5) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とした主な事業の実施結果について

内山委員長 生涯学習振興課長、中央図書館長、順に報告をお願いします。

生涯学習振興課長 報告事項(5)「生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とする主な事業の実施結果について」、報告します。

なお、今年度から、資料の行事名の欄に協力いただいた団体等を記載しています。

初めに、公民館で実施した事業について報告します。これらはいずれの事業についても、ふだんはなかなかできない体験型の事業となっています。このうち夏休み子ども講座については、宿泊を伴う唯一の事業として、自主性や協調性、コミュニケーション

力を育てることなどを目的に、地域の方々の協力を得ながら実施しました。参加した子どもたちからは、「参加者同士で仲良くなれてよかった」、「カレーづくりが楽しかった」などといった意見をいただいています。

続きまして、生涯学習センターで実施した事業についてですが、今年度は宇宙、気象、郷土意識、料理など、幅広い分野の事業を実施しました。料理教室については、親子で参加する形のもので、参加された方からは、「事業を通して子どもとの触れ合いができて良かった」などといった声をいただいています。

続きまして、科学館の事業についてですが、科学館は参加体験型施設であり、科学都市千葉推進の拠点施設であることから、今年度も夏休みの自由研究支援やロボットづくりなど、科学する心を育む多様な事業を実施しています。参加者からは、「科学のおもしろさに気づいた」、「来年度もぜひ参加したい」などという感想をいただきました。

続きまして、加曽利貝塚博物館、郷土博物館の事業についても、土器づくりや火起こしといった体験型事業となっており、本市ならではの事業として定着しています。参加者からは、「初めての体験でとても楽しかった」、「縄文時代のことがわかってよかった」等の感想がありました。

最後に、南部青少年センターについてですが、地域の方々に定着している参加型の事業を今年度も各種実施しました。なお、前回、明石委員からご指摘のあった、どのように事業を知ったか等についてのアンケートについてですが、結果を集計・分析中ですので、次回報告したいと思います。

中央図書館長 続いて、図書館における行事について報告します。

まず、図書館体験ですが、中央図書館の親子図書館体験ツアーを初め、地区図書館等で「子ども一日図書館員」などを開催し、参加者総数180人と盛況でした。参加者からは、「本の分類方法や書庫などの図書館のさまざまなことを知ることができて、貴重な体験であった」、「フィルムコートを張る体験が楽しかった」、「図書館がますます好きになった」という感想をいただいています。

次に、夏のおはなし会は参加者総数807人で、こちらも大盛況でした。参加者からは、「読み聞かせがとてもわかりやすくよかった」、保護者からは「改めて子どもにいろいろなお話を聞

かせたいと思った」という感想をいただいています。

また、高校生が語るおはなし会も、「親しみやすい」、「一生懸命ですばらしい」と大変好評でした。読み聞かせを行った高校生からは、「子どもたちが楽しめるような読み聞かせができるようになることに喜びを感じた」、「改めて本を読むととてもおもしろく、本の世界が楽しかった」、「これからもぜひ続けたい」という感想がありました。

次に、科学工作あそびは、地区図書館4館、分館2館で開催し、参加者は332人でした。千葉市科学館、東京ガス株式会社などの協力を得て実施しましたが、参加者からは「難しかったけど楽しかった」、「世界で1つだけの豆本ができてよかった」などの感想をいただいています。

最後に、地区図書館3館で開催した映画会では、参加者総数262人で、感想としては、「これからも継続してほしい」、「本を読むのも楽しいが、映像で見るのもわかりやすくて楽しい」という意見をいただいています。

夏休み期間中の事業全体については、「毎年楽しみにしている」、「また参加したい」とのうれしい感想も数多くいただいています。

今後の課題としては、夏休みに入ってすぐの1週間は、学校で学習相談や水泳教室、個人面談等の予定がある場合が多いので、近隣の学校と連絡を取り合って、開催時期を検討すること。また、親子での参加イベントでも、土日に限らず平日の実施を考えることなどが挙げられています。今後も、より一層図書館を身近に感じていただけるようなイベントを企画し、開催していきたいと考えています。

中 野 委 員 ハローワーク講座の「気象予報“志”道場」という、多分、気象予報士になりたいという子もたくさんいると思うのですが、そのような子にとってもいろいろな情報が得られたと思います。夏休みの時期にこのような将来の仕事に結びつくような情報を、さらにそれを見ると、自分はこういう職業になりたいとか、こういう仕事かとわかるようなものがもっとあると、なお良いかと思いました。非常にこれはいいアイデアだと私は思いました。

明 石 委 員 ちょっとお聞きしたいのですが、例えば黒砂公民館の方や打瀬公民館の方は、他の館の資料を見ることができるのでしょうか。自分の館で実施したデータはあるけれども、ほかの館はどういうことを実施したか、実施していることはわかるけれども、何人集

まったか等、お互いの情報交換はどうなっているのでしょうか。
生涯学習振興課長 月に1回、館長会議を実施しており、その場でそれぞれの事業等の情報共有についても、適宜行っています。

内山委員長 実施しているわけですね。

明石委員 こういう質問をしたのは、本の読み聞かせは図書館がやるのは当たり前だけれども、中央図書館を始め、地区図書館や分館で映画会も、科学工作あそびもやるなど、柔軟い発想をもって企画をしていますよね。そのような刺激のある情報が届くと、公民館がもっと、自分の館も何かやってみようなど、先生がおっしゃるように、気象予報士だけではなく、来年もいろいろな企画がまた出てくると思います。

そこで、ぜひ館長さんをお願いしたいのは、企画する主事などの方が、情報の共有化をしてくれるともっと良いかと思います。意見になります。

報告事項(6)開館日の拡大について

内山委員長 中央図書館長、報告をお願いします。

中央図書館長 報告事項(6)「開館日の拡大について」、報告します。

まず主旨ですが、開館日・開館時間の拡大は、図書館利用者の利便性向上を図る上での最重要課題として検討を続けていますが、今回、業務の見直しなどにより開館することが可能で、なおかつ経費負担を伴わない取り組みとして、本年度から下記の2つの事項について実施したいと考えています。

まず、1つ目が1月4日は今まで1日休館日でしたが、この休館日を午後から開館します。

今まで1日休館にしていた理由ですが、年末年始の休館中にポストに投函された本の返却処理や、インターネットで受けた予約本の貸出準備、及び配達された新聞・雑誌等の整理・配架を行うため、1日休館としていました。

これを予約本の準備や新聞の整理・配架の効率化を図り、また、職員の配置変更等により、返却処理などの開館準備の業務に職員を集中させて、午前中に行うことにより、午後から開館をしようとするものです。

なお、今年度は試行で臨時開館することとし、課題等を検証した上で、午後開館のままで良いか、さらに拡大できないかななどを検討した後に、規則改正をしたいと考えています。

2つ目が、蔵書点検を行う特別整理期間を7日間から5日間に短縮し、実施サイクルを2年に1回として開館日の拡大を図るものです。

まず現状ですが、蔵書点検は今まで実質7日間を休館し、毎年1回実施してきました。蔵書点検期間中に年1回集中的に行っていた書架の清掃作業を、毎月の図書整理日である第3木曜日に、1年間をかけて計画的に職員全員で行うこととし、2日短縮するものです。

さらに、不明本の発生率が低いことから、毎年実施していた蔵書点検を隔年実施に変更します。ちなみに不明本の発生率ですが、図書館全体では過去3か年全て0.07%で推移しています。冊数で申しますと、約190万冊の蔵書点検冊数に対し約1,300冊の不明本の発生ということになります。

今年度は中央図書館のみ蔵書点検を実施しますので、この2つの取組みにより、昨年度と比較して、中央図書館は2.5日の開館日の増、地区図書館・分館は7.5日の開館日の増となり、翌26年度は中央図書館が7.5日の増、地区図書館・分館が2.5日の増となります。

明石委員 データがあれば教えてほしいのですが、中央図書館は開館は夜9時までですね。

中央図書館長 はい。平日は夜9時まで開館しています。

明石委員 それで、夜7時から9時までの利用者の中で、いわゆるサラリーマンの方がどのくらいいるのでしょうか。

実は私、中央図書館設立時に準備委員会で参加し、キーワードを東京発6時総武線快速に乗って、7時に入館して、2時間くらい図書館で勉強できるとしていました。当時は10時まで開館できないかということをお願いしたのですが、お金がかかると猛反対を受け、9時になったと思うのですが、そういう理念があるのだけれども、実際の利用者として、夜7時から9時までの2時間の利用者の数は、どういう方が利用されているかわかるでしょうか。非常に金がかかることだと思いますが。

中央図書館長 今年度、こういった年代の方が来館しているかという調査を、年4回実施しようとしており、その結果を見て、大体の年代層はわかるかと思いますが、その方がサラリーマンかどうかという、そこまではわからないかと思います。結果が出ましたら、報告します。

実は千葉大の図書館が土曜日に午後開館したのですが、それだけでお金が2,000万円かかるようです。非常にこの取組みは頑張ってくれていますから、膨大な費用がかかることなので、費用対効果を考えて、データに基づいて時間を考えていくことが大事だと思います。

議案第 31 号 県費負担教職員の人事について

教職員課長 議案第31号「県費負担教職員の人事について」、説明します。

まず、1 件目は、千葉市立花見川第三小学校校長麻生明德から、
●●●●のため 9 月 3 0 日付で退職願が提出されましたので、1
0 月 1 日付で、南部青少年センター担当所長補佐川邊敏明を、校
長として昇任発令しようとするものです。

次に２件目は、平成２５年１０月１１日から平成２６年３月３１日まで、千葉市立椎名小学校校長島村京子から、●●●●●●●●●●休職願いが提出されましたので、１０月１１日付で、教育センター学校支援室主任指導主事網野一志を、校長として昇任発令しようとするものです。

委員長 総務課長、説明をお願いします。

平成25年度千葉市教育功労者として、個人及び団体を表彰することについて、千葉市教育委員会組織規則第8条第7号の規定に基づき議決を求めるものです。

表彰候補者については、千葉市教育功労者表彰規則及び千葉市教育功労者表彰の表彰基準細則に則り、関係所管より推薦された方々及び団体について、教育功労者表彰審査委員会において審査、決定されています。

今年度表彰者の内訳を説明します。

学校保健関係 14 名で、内訳が、学校医 6 名、学校歯科医 5 名、学校薬剤師 3 名です。

生涯学習関係 5 名で、内訳が、社会教育関係 1 名、スポーツ関係 2 名、文化芸術関係 2 名です。

学校教育関係 46 名で、内訳が、小学校長 24 名、中学校長 22 名です。

以上の個人 65 名と、小学校 4 校、中学校 3 校の合計 7 団体です。

各表彰者の推薦理由等については、参考資料のとおりです。

なお、表彰式については、11月26日火曜日、午前10時30分から、オークラ千葉ホテルで開催の予定ですので、ご出席のほどよろしくお願いします。表彰式の詳細については、後日改めてお知らせします。

委員 非常にいいことだと思います。

この教育功労賞をいただく場合に、賞状以外の何か記念品はいただけるのですか。

総務課長 現在、表彰状のみです。

教育長 記念品を渡していた時代が長くありましたが、今の時代は、何も渡さない風潮になりつつありますね。

委員 この学校医ですが、今、70代、80代と皆さん、かなり高齢の人ばかりですね。これは仕方がないのでしょうか、歯科医師になると、急に60代と若くなっていますね。医師ではこの先生は、現役の医者なのかなという方も入っていますね。

学校教育部長 委員のご指摘のとおり、学校医に関しては、先般2年前に枠を倍に増やしました。しかし、学校医の状況は今、年齢が高いということから、来年度、医師会との話し合いの中で、この人数についてももう少し考慮していこうと今、関係者と話を詰めています。

委員 87歳なのでまだ在職なのかと思ったら、元学校医だったのですね。

教育長 幾ら高齢社会と言っても、見直しが必要だと思います。

教育委員の任期が終了したら、何かもらえるのですか。

委員 県の教育功労賞は賞状以外に何かもらっているのでしょうか。
学校教育部長 今はありません。

教育長 以前は、教員を退職する際に、退職顕彰を実施していましたが、それも賞状も渡さなくなり、今は私の手書きの挨拶のみです。
少しずつ、少しずつ、なくなっています。

委員 頑張ってくれているので、何か千葉らしいバージョンを考えましょう。

委員 教育は大切と口では皆さん言っていますが、その後の扱いがちょっと粗い感じがしますよね。

教育長 市の職員は、退職したら表彰するものはないのですか。

教育総務部長 15年、25年をもって、永年勤続表彰というのが、かつては賞状とは別に差し上げていたましたが、全てなくなりました。

教育長 特に定年の時はないですね。

教育総務部長 それはないです。

7 その他

- (1) 「『私の思い』～中学生の主張～千葉県大会」について、明石委員から報告があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

明石委員 9月21日の土曜日に、千葉県の中학생対象の「『私の思い』～中学生の主張～千葉県大会」が開催され、4,000名参加した中の選ばれた14名が3分間発表をし、県代表を決めました。その中で千葉市の中学校の参加が56校中4校しか参加していませんでした。96万都市で4校というのは非常に少ないではないかと言われました。

子ども議会で中学生、高校生たちが非常に頑張って、チームをつくっていい提案をしましたね。せっかくB問題であれだけ力がついている千葉市の子どもたちが、意見表明するというチャンネルを、もっともっと学校で実施してほしいです。そこで、次の生徒会の役員の連絡会議から、その後、子ども市議会で市に提案するという青少年の参画する仕組みづくりを、ステージ、ステージで考えていただけるといいかと思っています。そうすると、強制はできませんが、「『私の思い』～中学生の主張～」のような営みがあるストーリーを考えていただけるといいかと希望します。

和田委員 それは個人ではなく、学校で全員が出すような学校単位での参加ですか。

明石委員 学校でもいいし、学級でもいいし、個人でもいいと思います。

和田委員 個人でもいいのですか。

明石委員 はい。原稿用紙で4枚書き、意見表明をします。

内山委員長 これもなかなか難しい問題があるかもしれませんが、参加しようという問題意識を持ち、学校がそれぞれ努力してほしいですね。

(2) 中学校英語発表会について、和田委員から所見が述べられた。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

和田委員 少し関連しますが、9月5日に開催された中学校英語発表会を聞きに行きましたが、大変すばらしかったです。多分、帰国子女でもなく、初めて英語に接したであろう1年生が入学してまだ半年も経っていない状態で、あれだけの暗誦をし、素晴らしい発表を見せてくれて、本当に感激しました。

それと同時に、もし可能であれば、もう少しステージがある見栄えのある場所で開催していただけると良いと思いました。もちろん子どもたちも緊張すると思いますが、またそこでステップアップしてくれると思いました。

明石委員 この場所は、ステージがなかったのですか。

和田委員 ステージがある場所もありますが、机の向こう側で発表するだけというような場所もあったようです。

今、明石委員からもお話がありましたが、市内で英語ではなく、日本語で弁論大会を行っていますか。

指導課長 白井中学校が、他の学校を招待し、弁論大会を開いて、もう50年近くの歴史があります。

和田委員 それは全校が参加しているのですか。それとも希望する学校だけですか。

指導課長 希望する学校が招待され、白井中に集まって、弁論大会を行っています。

明石委員 それをいつ開催しているかわかりますか。

和田委員 私も拝見したいと思うので、ぜひよろしくお願いします。

指導課長 秋です。

志村教育長 地区のライオンズが後援し、もう50年近く続けていまして、教育委員会は直接関わっていません。現在、審査委員などは国語科の校長先生などがやっていますが、先程の県の弁論大会のような発想が50年前から千葉市にはありました。

話は違いますが、千葉市は政令市になってから、県の大会が特

に離れてしまう傾向があります。千葉市内の大会であればいくつかありますが、それは変えていかなければならないと思っています。

いわゆる県の弁論大会を知っている学校、知っている先生、知っている子どもがどのくらいいるのかということも、教育委員会として、ほとんど知らないことは残念です。

明 石 委 員 県よりも、その県の代表になったら全国に行くというのがあるので、いろいろなチャンネルをたくさん用意して、市内中学校の弁論大会でもいいし、とにかく意見表明する場をつくらないと、世界と闘っていけないと思います。せっかくこれだけ学力がついてきているので、内向きの若者が多い中、外に出て自己主張するという能力を育て、対人的な交渉能力を身に着けて世界と闘ってほしいと思います。

和 田 委 員 例えば、市のレベルの弁論大会の前に、校内弁論大会をやる仕組みをつくったり、合唱大会などいろいろな方法がありますが、学校の中でまずは始めてみるということ是可以ののでしょうか。

内 山 委 員 長 確かに意見を述べるというようなところが、ちょっと全体に弱いなという感じはしますね、現場におりましてね。

私も初めて英語発表会に参加しましたが、良かったですね。一生懸命勉強している状況がよくわかりました。一人、ちょっと途中でつまずいて、辛かったと思います。

いろんな試みをまた営み、さらに進んでもらいたいですね。

中 野 委 員 稲毛高校の2人組の生徒が、ドイツ語のスピーチ全国大会で優勝したという記事を千葉日報で見ました。第二外国語で優勝したというので、素晴らしいと思いました。

第二外国語というのは、幾つ選択できるのでしょうか。ドイツ語やフランス語の2つくらいなののでしょうか。さらに、実際どのくらいの人数が選択しているのですか。

明 石 委 員 その生徒は中学生ですか。

中 野 委 員 いや、高校生です。2人のうち1人は稲毛高校に入りたいくて、勝浦から、2時間かけて通っているそうです。どうしても稲毛高校へ行きたいということで頑張っているわけですが、全国大会で優勝するのはすごいと思いました。

篠 原 委 員 国際教養科は第二外国語を選択しますよね。

中 野 委 員 ああ、そうですね。

明 石 委 員 今のところは調べてもらえばね、わかると思います。

中 野 委 員 第二外国語で優勝したのですから、すごいですよね。

篠 原 委 員 この前の英語発表会のときに、市立千葉の先生が最後に、「皆さん、本校へ来てくれ」と言っていたので、とてもおもしろいと思いました。そのスピーチも、全部英語だったのですが、講師の先生方の話を生徒みんなが、真剣に聞いていて、えらいなと見ていました。

和 田 委 員 私たちが感想を述べるのだけが日本語でしたね。

篠 原 委 員 そうでしたね。

明 石 委 員 そうすると、稲毛高校の先生も、そういう中学生を勧誘しているわけね。

篠 原 委 員 そのときは、稲毛高校の先生ではなく、市立千葉高校の先生が審査員になっていました。

子どもたちがあれだけの先生方の前で、身振り、手振りを使いながら英語で表現している姿は素晴らしいと思いました。

(3) 第56回千葉市小・中・特別支援学校児童生徒作品総合展覧会第1部について、篠原委員から所見が述べられた。

篠 原 委 員 もう一つは、総合展に行った際に、ちょうど小学生の発表の場がありました。前は騒がしく、先生が発表の仕方を注意していましたが、今回は受賞者の子どもが、1階のアトリウムの場でちゃんと発表をしていました。さらに毎日発表していくうちに、とてもうまく発表ができるようになってきたと説明してもらい、やはり子どもたちも場を踏むと、自分のものになっていくということをすごく感じました。やはりいろいろなところで発表する機会をつくってもらおうというのは、子どもにとってはとても成長すると深く感じました。

(4) 次回第10回定例会は、平成25年10月11日（金）午後2時より開催することと決定した。

8 閉会

内山委員長より閉会を宣言